

専業主婦から主任介護支援専門員へ 福祉のおもしろさに魅了された、ケアマネジャー

キャリアアップ

小松京子さん / 58歳

小規模多機能おさ「弥永亭」主任介護支援専門員

キャリア

37歳頃	デイケアでパート勤務を始める
41歳頃	ケアマネジャーとして働き始める
53歳頃	グループホームで勤務を始める
54歳頃	現在の職場に異動

ある日の1日



- ママ友に教えてもらって、「ヘルパー」に興味を持つ
- 人生の先輩である利用者さんの優しさに支えられ、専門職として成長する
- 何年続けても、常に勉強の福祉の世界

❗ 福祉の仕事をする前は何をしていた？

— 出産を機に専業主婦になる

29歳頃まで、法律事務所で事務をしていました。子どもが生まれたのを機に退職し、専業主婦になりました。2人の子どもの幼稚園を卒園する頃、周囲のママ友が仕事に復帰するようになり、「私も何かしたいな」と思ったんです。そんな時に、看護師をしていたママ友から、高齢者のお宅でいろんなお手伝いをするヘルパーという仕事があることを聞きました。義父と同居していたこともあり、将来の役にたてばと思って、やってみようと思いました。すぐにいろいろと調べて、ヘルパー2級の資格を取るためのコースに申し込みました。当時は希望者がすごく多くて、半年くらい待ったんです。2か月くらい勉強をして、ヘルパー2級の資格を取りました。

— 新鮮な福祉の世界に触れて、どっぷりハマる

福祉の勉強は、とても面白かったし、新しい発見がたくさんありました。「働かざる者食うべからず」で育ってきた私にとっては、生きているだけで幸せを求めていると言われていたような福祉の考え方が、とても新鮮でした。

最初は、デイケアでのパートから始めました。8:30～13:30までの短い時間だったので、ヘトヘトになるまで働くという感じではなかったですね。今思うと、最初にそれくらいから始めたのが良かったのかもしれない。当時は、入浴介助をメインでやっていました。今でも記憶に残っているのは、ご利用者から「辛抱せないかんばい。よかことがあるよ。」と言ってもらったことです。今でも私を支えてくれている言葉です。

！ 福祉の仕事をする前と後で、イメージは変わった？

— ご利用者の優しさに支えられながら、ステップアップ



ご利用者は人生の先輩ですから、学ぶことがたくさんありました。スタッフやご利用者にまだ馴染めていない時期に一人でお昼ご飯を食べていたら、ご利用者さんが「こっちにこんね。」って声をかけて下さったりもしました。ご利用者さんに対して、私はまだ何もできていないのに、優しさを向けて下さったことが、本当にありがたかったです。

それからどんどんこの世界にハマっていきました。もっともっと勉強しないといけないことがあると思うようになって、介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員を取得しました。義父の担当ケアマネジャーになったこともあります。ケアマネジャーの立場と家族の立場とでは、見える景色や入ってくる情報が、こんなにも違うものかと驚きました。いろんな経験をさせてくれた家族や、大変な時期に支えてくれた職場のみなさんには感謝しています。今は、高齢分野以外のことも勉強したいなと思っています。

！ 仕事以外はどんな生活をしている？

— 趣味の三味線に没頭

最近の趣味は三味線です。以前勤めていた職場に、高校の津軽三味線部の学生さんが、ボランティアで演奏に来てくれたんです。その演奏が本当にかっこよくて、素晴らしくて、引き込まれてしまいました。自分も弾いてみたいなあと思うようになって、三味線教室を探して、5年くらい前から通いだしました。とても楽しいですよ。まだまだ上手じゃないですけど、時々ご利用者に披露したりしています。上手になったねって褒めて頂いています。

休みの日は、ベットのミニチュアシュナウザーの散歩から始まります。そのあと、三味線の練習をしたり、自由に過ごしています。あとは、お弁当のおかずの作り置きをつくりながら、15～16時くらいからビールを飲むのが楽しみです。



取材を終えて

ママ友に教えてもらって始めた介護のお仕事ですが、気付けばハマっていたそうです。たくさんの資格を取得されていますが、まだまだ学ばないといけないことがあると、とても向上心のある方でした。